館報 中川

第319号
2025年（令和７年）
11月15日
中川村公民館

県宝　銅製雲板

禅寺の「雲板」は、食事の準備や開始、座禅・法要・行事の開始と終了などを合図するために打ち鳴らす道具である。今でいう「チャイム」だ。

写真の雲板は中川村中央地区の禅寺実際寺（じっさいじ）のものである。銘文に嘉慶（かきょう）2年（1388年）とあり、県内最古のものとして昭和40年に県宝に指定された。

実際寺は片切氏（片桐氏）の創建で、南北朝時代から室町時代前半にかけて最も栄えたという。雲板が造られたのもその頃だ。

リニューアルオープンした中川村歴史民俗資料館には、この雲板が常設展示されている。総長40・5センチ、総幅37・5センチ。実物は思いのほか大きい。

こんな大きな板を打ち鳴らすほど、多くの禅僧が修行していたということか。一体どんな音が響いていたのだろう。さすがに県宝は叩けないが、実物を間近に見て、その音と往時の隆盛を想像してみたい。

第50回 中川村文化祭

（文化団体連絡協議会・公民館共催）

第50回の節目となる中川村文化祭が、まなびの里「牧ヶ原文化公園」を会場に盛大に開催されました。展示の部が社会体育館を会場に11月7日（金）～9日（日）の3日間にわたり開催、ステージの部が文化センター大ホールを会場に9日（日）午後12時15分から開催されました。

共同開催「なかがわ商工祭」

50回記念として9日（日）に「なかがわ商工祭」が合わせて開催されました。あいにくの雨模様で商工祭で企画した「アルクマ熱気球」が飛びませんでしたが、大勢のみなさんに来場いただき、さまざまな展示や体験、フードコートでの食事を通して、文化の秋、体験の秋、食欲の秋の祭典「商工祭＆文化祭」を堪能していただきました。

初の共同開催「なかがわ商工祭」

技の祭典「展示の部」

展示の部は村民のみなさんが生涯学習の成果を発表する場で、村内の文化グループ・クラブ等、幅広い年齢層の43団体、14名の個人出展のみなさんから、約1000点の多岐にわたるジャンルの作品が展示され、50回に相応しい力作の数々が会場に並びました。50回記念で夏休みに児童クラブの小学生と描いた「文化祭のおっきな絵」が展示されたほか、絵本作家の舘野鴻さんと描いた「みつばち里山巨大絵巻」など、10m近くの大きな絵が会場内に並びました。

百花繚乱【展示の部】

同時開催の体験コーナーや講演会なども開催され、恒例の「茶道体験」、初開催の絵本や紙芝居の読み聞かせ「おはなし会」、体育館の玄関を彩った「透かし折り紙の体験」、西小学校5学年による「お菓子の販売」、保健福祉課が主催のがらくた座の人形劇「いのちのお話会」、地域政策課DX推進係による文化祭特別講座「スマホ詐欺からの守り方」などが開催されました。

展示会場には、3日間でのべ1155名が来場し、さまざまな力作の数々をご覧いただけたことと思います。年々作品出展数の減少はありますが、一つひとつの展示内容の充実さ、多岐にわたる取り組みの数々に、中川村の文化・芸術の奥深さ、素晴らしさを再確認しました。

ムーミンの会による「おはなし会」

特別企画「文化祭50年の歴史」

現在、中川村文化祭は展示の部とステージの部で構成され、文化団体連絡協議会と公民館が主催して開催しています。今回、展示の部に展示した「文化祭50年の歴史」からご紹介します。

現在の文化祭「展示の部」の前身にあたる「文化展」のはじまりについては、明確な記載がなくはっきりとはしないものの、旧片桐村の広報誌「かたぎり」第10号（昭和26年4月発行）に「創作展らん會　十二月文化祭」と記載があり、すでに開催されていたようです。

昭和50年（1975）にはじまった「むらの文化祭」が、現在の文化祭「ステージの部」にあたります。むらの文化祭のはじまりは、当時の村青年会のみなさんによる創作ミュージカルがきっかけであったことが、過去の公民館報に記載されています。

当時の若者たちが、「必死に作り上げた演劇を村民のみなさんにも見ていただきたい。」そうした思いから、むらの文化祭がはじまったのです。

昭和50年に青年会のみなさんによってはじまって以降、多くのみなさんのご協力のもと、昭和63年の開催中止を除き、毎年開催することができています。

そして、「文化展」と「むらの文化祭」は、時代とともに会場や開催方法などを工夫しながら、現在の「中川村文化祭」に形を変え、みなさんの「文化・芸術発表の場」に限らず、文化祭を通して、ふれあいや交流が生まれる「秋の祭典」として現在まで脈々と続いています。

西小５学年の「お菓子の販売」

文化の華「ステージの部」

ステージの部は、22団体・個人、約250名の方々がステージに立ち、盛大に開催されました。

文化団体連絡協議会加盟団体を始め、村内のグループが日頃の練習の成果を披露しました。演目は、楽器演奏や踊りの他、獅子舞、落語、歌唱、フラダンス、太極拳、空手、和太鼓、人形浄瑠璃、などジャンルは様々。今年は第50回を記念し、開会式で「みんなで村歌を歌おう！」と題して、合唱サークル「歌い人なかがWa」と有志の皆さんが一緒に村歌を合唱しました。また、5団体による特別コラボステージも行われ、節目にふさわしい熱気に満ちた4時間となりました。

幕間（まくあい）の舞台転換では舞台裏方のスタッフを担当した各分館社会文教部のみなさんが大活躍。出演者・観客・スタッフが一丸となったステージ発表となりました。多くのご来場をいただき、ありがとうございました。

50回の節目を迎え、更に進化を続ける中川村文化祭。各団体では、既に来年の文化祭に向けた準備が行われています。来年も多くの皆さんの来場をお待ちしています。

第 50 回記念特別コラボステージ

「みんなで村歌を歌おう！」

第50回 中川村文化祭 ステージの部 プログラム

1、吹奏楽　「打上花火」「青と夏」
……中川中学校吹奏楽部

【開会行事】

2、二部合唱　「しゃぼん玉」
「ずいずいずっころばし」「埴生の宿」
……歌い人なかがWa

3、ピアノ　「ソナタ月光」……音研

4、空手　「基本稽古」「試し割り」
……武道空手少年クラブ

5、伝統芸能　「獅子舞、おかめ踊り」
……南田島獅子舞保存会

6、日本舞踊　「風流水景色」「竹」
……池上社中

7、フルート演奏「瑠璃色の地球」「宝島」
……オールリ中川

8、エアロビクス　「365日の紙飛行機」
「StaRt」……健康体操クラブ

9、うた　「眦」「一番マグロの唄」
……渡辺　正

10、日本舞踊　「浮世舟」……ちどり会

11、太極拳演舞「入門 太極拳」「太極功夫扇」
……太極拳カトレア会

12、フラダンス「イ・ウイカプー ケアロハ」
「プア オレナ」…伊那谷フラファミリー

13、50周年記念コラボ企画

【休　憩】

14、伝統芸能　「三番叟」…中川人形保存会

15、落語　「転失気」……忠孫亭信修

16、アフリカンドラム&ダンス　「クク」
……サブニュマ

17、歌謡舞踊体操　「青い山脈」
……歌謡舞踊体操

18、喇叭吹奏　「消防喇叭の曲」
……中川村消防団喇叭隊

19、日本舞踊　「さらば桜島」「匠」
……日本舞踊 上伸流

20、ハーモニカ「もしもピアノが弾けたなら」
「歓喜の歌」……青空

21、YOSAKOーソーラン踊り「恋蛍」
「GOTTAみなこい!!～夏歌～」
……中川天龍振興会

22、ダンス　「HipHop ダンス」
…中川キッズダンスサークル

23、和太鼓　「イチの太鼓」
……陣馬太鼓 子ども連

【福 万 来】

編集委員によるリレーコラム！

中川村新たな学校づくりプロジェクト⑩

～みんなで考えよう！わたしたちの新しい学校～

「東小 子どもとおとなが教育を語る会」に参加して

「子ども vs AI」

2045年頃と予測されていたシンギュラリティが「教える」ということに特化すれば、2026年（つまり来年）には実現するという。６年後に完成する「新たな学校」は私たちの想像をはるかに超えてデジタル化が進むと思われる。
※シンギュラリティ（技術的特異点）＝AIが自己革命を繰り返し人間の知能を超える転換点

「学校の主役は誰？」

AIの答え

・学校の主役は**子ども**　…（学校は子どもが学び成長するための施設、先生やおとなはそれを補助する役割）

子どもの答え（抜粋）

・学校の主役は**校長先生**　…（校長先生が決めたことを、みんなでしていくから）
・学校の主役は**ノートとえんぴつ**　…（ノートとえんぴつが無いと教えてもらったことを忘れてしまうから）

「東小 子どもとおとなが教育を語る会」には保護者、地域住民、教職員と6年生の総勢60人余が参加し「学校の主役は誰？」というテーマで話し合いをしました。「だれ」という質問におとなは「人間」をイメージしました。しかし子どもはもっと自由な発想でした。「物」も擬人化すれば「だれ」になると気づかされましたが、これは現在のAIには出せない答えでした。

否応なくデジタル化が進む世の中では、AIを便利なツールとして活用することは必要だと思います。ただし、画一的な考え方を防ぐには、子ども達の無垢で自由な発想が最強の武器かもしれない！！（朝）

話題あれこれ

「整う」という時間

ここ数年、「サウナで整う」という言葉を耳にする機会が増えました。テレビや雑誌でも取り上げられることが多く、今では若い世代から年配の方まで、幅広く親しまれているように思います。私も例に漏れず、気がつけば自分へのご褒美としてサウナに通うようになった一人です。

整うとは？

さて、この「整う」とは、ただ汗をかいてスッキリするという意味ではありません。高温のサウナ室で体を温め、水風呂で一気に冷やし、最後に外気浴でゆっくりと体温を自然な状態に戻す。この温冷交代によって自律神経のバランスが整い、全身の血流が効果的に促進されます。その結果、脳内では幸福感をもたらすホルモンといわれる「βエンドルフィン」や「オキシトシン」が分泌されることが分かっています。つまり〝整う〟とは体が軽くなるだけでなく、心が静かに満たされる状態のことなのです。

〝無の時間〟

通い始めた頃は「熱い」「冷たい」を繰り返すだけで精一杯でしたが、慣れてくると次第にその間にある〝無〟の時間が心地よく感じられるようになりました。サウナ室の中ではスマホも会話もなく、ただ自分の呼吸と鼓動だけが聞こえてきます。目を閉じると、頭の中のノイズが一枚ずつはがれていくような感覚があります。外に出て風にあたると、空の色や木々の音さえもいつもより鮮やかに感じられ、仕事や日常の中で溜まったストレスや疲れが、少しずつ溶けていくような気がします。

木製の小屋のような「バレルサウナ」

頭の中の引き出しを整頓

また、サウナを出たあとの集中力の高さにも驚かされます。血流がよくなり、脳への酸素供給が増えるせいか、物事に落ち着いて向き合えるようになるのです。最近では、勉強や創作の前にサウナに入る人も多いと聞きます。私自身も〝整って〟から仕事や勉強に取りかかると、思考が整理され、頭の中の引き出しが自然と整頓されるような感覚があります。

不思議な一体感

サウナは人との距離を自然に近づけてくれる場所でもあります。多くを語らずとも、同じ空間で汗を流すうちに、不思議な一体感が生まれるのです。常連同士で「お先にどうぞ」と声をかけ合うだけでも、温かい交流を感じられるのがサウナの大きな魅力。そこには世代も立場も関係なく、ただ「気持ちよさ」を共有する時間が流れています。

個性豊かなサウナ

最近では中川村の周辺にも、個性豊かなサウナが増えてきました。丸い木製の小屋のような「バレルサウナ」で、雄大な自然を感じながら汗を流せる場所もありますし、熱波師（ねっぱし）によるロウリュで一気に体感温度を上げる施設もあります。どこも自然と一体になれるロケーションが魅力で、外気浴の心地よさは格別です。特に冬の澄んだ空気の中での一息は、まさに〝生き返る〟ような気分になります。

小さなご褒美

忙しい毎日の中で、体も心も少しずつ固まっていきます。そんな時こそ、熱と冷たさの往復でリセットする時間を持つことが大切だと感じます。サウナは特別な趣味というより、現代人にとっての小さなご褒美のようなものです。

「また明日から頑張ろう」と思える原動力を、私はこの〝整う時間〟からもらっています。

最近では、サウナの入り方や整い方を紹介する動画も増えています。少し時間をつくって温冷のリズムを味わうだけでも、驚くほど心が軽くなります。

澄んだ空気や豊かな自然の中で深呼吸をする時の心地よさは、サウナで〝整う〟感覚にもどこか通じています。自然とともに生きるこの地域だからこそ、その静けさをより深く味わえるのかもしれません。

※ロウリュ…熱した石に水をかけて蒸気を発生させ、室内の温度と湿度を上げる行為のこと。

（ＳＴ）

「ロウリュ」で体感温度を調整

みんなの広場

私の南向、そして中川

中組　湯澤　章平さん

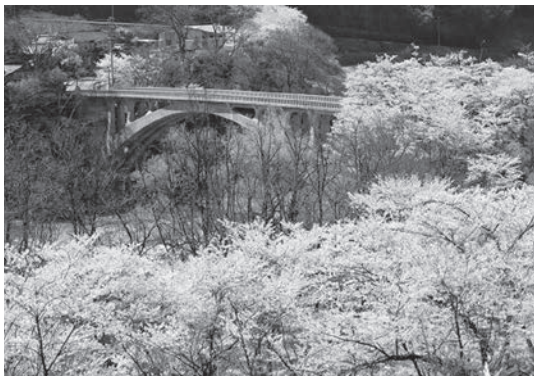
父母はこの村を「中川村」とは言わず「南向」と呼んでいました。その中で育った私にとっても、この村はやはり「南向」でした。

南向の家は、盆と正月に帰る祖父母の家でした。夏は蝉しぐれの中で盆ござを編み、盆棚を作って先祖を迎えました。年の暮れは藁をなって松飾りを作り、昔からある重い杵と石の臼で餅つきをしました。

小学校2年生の時から私の生活の拠点は母の実家がある辰野町でした。父の退職後、両親は南向の家に戻りましたが、私はそのまま辰野町で半世紀ほど暮らしました。

「南向」で生活をするようになったのは、6年前に母が病で自由に動けなくなってからです。しかし、その当時私はまだ仕事をしており、家と職場を往復する生活だったので、地域のことに関わることはあまりできませんでした。

地区の役職などを通して地域の方々を知り、関わるようになってからまだ1年たっていません。人も地域のこともほとんど知らず、わかっている方々にお聞きし、もたつきながら何とかやってきました。1年間ひと通り地区の仕事を体験して少しはわかってきましたが、まだまだこれからも多くの方々のご指南をいただかなければならないと思います。お世話になりますが、よろしくお願いします。



中川村に限らず、たいていの市町村は少子高齢化が進んで地域の維持が困難になっています。各自治体では、企業を誘致したり、交通網を整備したり、目玉になるイベントを催したりして人を呼び込もうと努力しています。それの経済効果をもたらすであろう施策を求めることはもちろん必要です。霞を食って生きていくわけにはいきません。ただ、それだけでは地域の魅力を発信することは難しいのではないでしょうか。

私はそれに加えて「文化」で勝負できる村になっていけばいいなあと思っています。「文化」とは学問や芸術だけでは無く、スポーツや民俗を含めていいと思います。「文化」が栄えている国はそれが安全保障にもなります。逆に「文化」を軽んじる国は、いっとき隆盛のように見えても長続きしません。都道府県や市町村の消長も基本同じだと思います。

中川村にはいくつもの「文化の宝」があります。それを全面に押し出して「うちの村にはこんな宝がある」と住民が誇りに思うことができれば、若者の定住率が高くなり、村外から移り住む人も多くなるかもしれません。すぐに成果の上がることではありませんが、長期的な視野に立って「文化」を守り、育て、看板にしていく中川村であってほしいと密かに願っています。

つれづれなるままに

小平　浦上　絵美さん

海釣りを始めたのは6年前、職場で行った熱海旅行がきっかけでした。チームに分かれての釣り対決で、なんと1匹目を釣り上げたのです。小さいアジでしたが誇らしいのなんの。夫も釣りが好きだったこともあり、一週間後には道具を買って海へ向かっていました。

堤防から餌のついた針を投げて魚を待ちます。魚が寄ってきて、ツンツンと針が動くけどまだ待って、タイミングを合わせる。魚が針にかかったらグッと重くなるので釣り上げる。それだけなんだけど面白くてドハマリ。かかったと思っても逃げられちゃったり、釣れないこともあるからこそ、釣れたときの喜びはひとしおです。小アジをたくさん釣って南蛮漬けにしたり、地元の漁師さんにもらった魚を餌にして大きなタコを釣ったり。フグに阻まれながらも、夕食のおかずを求めて楽しんでいます。

大きな魚を求め、一昨年小型のゴムボートを購入しました。これで堤防では届かない沖の方で釣りができます。大きな魚のためなら船酔いも日焼けも受け入れて沖へ向かいます。ここでは大きなアジやタイ等が釣れて、食べ応えばっちり。我が家ではこちらが主流になりました。

私のお気に入りは穴釣りです。テトラポットや敷石の隙間に仕掛けを落として、カサゴ等の根魚を狙います。仕掛けが底に着いた瞬間に魚が餌を食べてグッと竿が重くなる感覚。魚がいそうな隙間を見極めるのも楽しいポイントです。

始めた当初は餌の虫が気持ち悪いし、釣り上げられてピチピチ動く魚は怖いし、「さわれない～」を繰り返していましたが、海の上ではそんなこと言っていられません。便利な道具を使いながら一連全て自分でできる。たくましくなってきました。

釣れないまま波に揺られる日もしばしば。そんな日は美味しいお寿司屋さんに寄ってから中川村に帰ります。広大な自然を感じながら針を垂らしてぼーっとする、釣れないことも楽しみとして受け入れた今、釣りは一生の趣味になるかもしれません。

郷想 故随

境界線が教えてくれた豊かさ

東京都在住　大竹（おおたけ）さくら さん
（八幡平地区出身）

星野道夫さんの『旅をする木』という本に、ある一節があります。

「ぼくが東京で暮らしている同じ瞬間に、同じ日本でヒグマが倒木を乗り越えながら力強く進んでいる。（中略）ぼくたちが毎日を生きている同じ瞬間、もうひとつの時間が、確実に、ゆったりと流れている。日々の暮らしの中で、心の片隅にそのことを意識できるかどうか、それは天と地の差ほど大きい。」

東京の喧騒の中でこの一節を読む時、私の頭に浮かぶのは、果てしなく遠い海の向こうにある、いつか訪れた街であり、同時に、生まれ育った中川村の風景でもあります。

幼少期、兄妹とどんちゃん祭りに行く

思い返せば幼少期の思い出は、そのほとんどが自然と隣り合わせでした。雪が積もった冬の日には、ソリを引いて登校し小学校でソリ滑りをし、夏は会館の裏の川でサワガニを捕まえ、春は人の家のものと知らずに筍を引っこ抜いて怒られたりしました。授業でも、「すべり山」で遊び、学校帰りは大草城址公園に集まって同級生と遊んだり。遊びの舞台はいつも自然の中でした。

思春期になると、中川村での暮らしの不便さばかりが目に付くようになったような気がします。中学に上がると部活動の選択肢は4つしかなく、（千葉に住む友人の学校は何十種類もあるのに…）最新の映画が見たくても、数ヶ月待つか、片道2時間半かけて（映画料金よりも高い交通費を払って）松本まで行かなければならなかったり。「こんな田舎じゃなければ」と思ったことは数知れず、ここにはないすべてがあるであろう街へ出るための出発点として、中川村を見ていたように思います。

高校卒業後、私は村を離れて石川県の大学に進学し、今は東京で暮らしています。

人生とは不思議なもので、中川村で暮らしていた頃に漠然と憧れを抱いていた、「村にないものがすべてある街」は、いつの間にか私の生活の「こちら側」になり、育ってきた中川村はわざわざ出向かなければ行くことができない「あちら側」になりました。

あちら側がこちら側になり、こちら側だった場所があちら側になる。そういうことを通して見えてきたことが沢山ありました。映画館へ片道15分足らずで行くことができる便利な街で生活するようになった今、私が豊かさを感じるのは、どういうわけか自分の幼少期に当たり前だった生活だったりします。それは、家の畑で採れた野菜で夕ごはんを作ることだったり、村で育てられた新鮮でおいしいお米や食材をいただけることだったり、プラネタリウムへ行かなくとも家の庭先から見上げるとそこにある満天の星空だったり。

実家の畑で採れた野菜

ないものねだりですが、かつての生活にはなかったものに囲まれながら、中川村にある自然の恵みと時間の流れを愛おしく思います。

私が忙しなく生きている日々の中でも、故郷の山々は変わらずそこにあり、もうひとつの時間が確かに流れているのだと意識できることは、想像以上に深い安堵と勇気を与えてくれているような気がします。

令和８年　中川村成人式のお知らせ

日　時　令和８年１月３日（土曜日）午後１時　開式
会　場　望岳荘　大宴会場　ほか
（上伊那郡中川村大草4489　電話：0265-88-2033）
※望岳荘へのご宿泊も可能です。成人式でご宿泊の場合は特別料金でお泊まりいただけます。ご宿泊を希望される場合は望岳荘へお問い合わせください。

日　程
・受　付　12時30分～12時50分
・記念式典　13時00分～14時10分
・新成人の近況報告　14時20分～15時10分
・記念撮影　15時20分～15時30分
・祝　宴　15時40分～16時45分（終了予定:17時00分頃）

該当者
令和２年度中川中学校卒業生および
平成17年４月２日～平成18年４月１日生の村内在住者

その他
※成人式実行委員会で協議を行い、例年から開催場所および開催時間が変更となっております。ご準備などでご迷惑をおかけいたしますが、お間違いのないようご注意ください。

お問い合わせ先　中川村公民館（電話 88-1005）

こんにちは 赤ちゃん No.011

片桐（かたぎり） 秀美（ひでみ） さん（葛北在住）
綾乃（あやの） さん
長男 耀（かい） くん （1歳2か月）
次男 碧（あお） くん （1歳2か月）
四女 律（りつ） ちゃん（1歳2か月）

3人でパシャリ

今月の「赤ちゃんこんにちは」は、令和6年9月に生まれた、中川村初の三つ子ちゃんの片桐耀くん、碧くん、律ちゃんのご両親の秀美さん、綾乃さんにインタビューしました。

★★★★★★★★★★★★

【初めて三つ子だとわかった時のご両親のお気持ちは？】

秀美さん… ただただ驚きました。（笑）

綾乃さん… フリーズしました。（笑）

ん？三つ子？三つ子!?しばらく落ち着きませんでした。（笑）

【生まれた時のエピソードを教えてください】

三つ子ということもあり、出産予定日の約2ヶ月半前から安曇野のこども病院に入院していました。特に何事もなく順調だったので入院して1ヶ月のときに外出の許可をもらい、子どもたちと久しぶりに病院の近場におでかけをしました。

そしてその日の夜中に急遽出産となり、三つ子が生まれました。

旦那は慌てて中川から安曇野へ、病院に着く頃にはすでに生まれていましたがすぐに面会にはならず、旦那は睡魔と戦いながら3人分の書類に何枚もサインを書いていたそうです。

生まれた三つ子を見た時は、本当に3人お腹に入っていたんだなと実感しました。

【初めて3つ子ちゃんと対面したときの印象は？】

可愛いにつきます。（笑）

低体重児で生まれ、こんな小さな体でも必死に生きようとしている姿をみて絶対に守っていこうと決意をしました。

【名前の由来は？】

耀… 耀は舟を漕ぐオール、オールで漕ぐから舟が進む。自らの力でどんな事があっても進んで行ける人になって欲しい。

碧… 碧い空や海のようにキレイな心を持った人になって欲しい。

律… 自分を律する事ができる、強い意志を持った人になって欲しい。

【お子さんの好きな食べ物は？】

みんなバナナが大好き！

3人とも食欲旺盛でバクバク食べます。（笑）

【三つ子ちゃんは誰に似ていると思いますか？】

耀… 長女の小さい頃にそっくり。（笑）

碧、律… 母親に似ている

【三つ子ちゃんの癖は何かありますか？】

耀… いつも同じぬいぐるみを握って離さない。（笑）

碧… 笑いながら壁をバンバン叩く。

律… ノリノリの歌が流れると踊りだす。

【大きくなったら家族でどんなことをしたいですか？】

三つ子が産まれてから、なかなか出かけられていないので家族で県外へ旅行に出かけたいです。

【将来どんなことを習わせたいですか？】

本人が興味を持つものを、幅広くやってくれればいいと思っています。

どれにしようかな～

【三つ子ちゃんが生まれて生活で変わったことは？】

今までも子供中心の生活でしたが文字通り輪をかけてその生活になりました。さらに上の子3人が三つ子の世話をしてくれて助かっています！

【三つ子ちゃんに関する面白エピソードはありますか？】

櫂と碧はおしゃぶりが好きでよくしているのですが、なぜか急に律がおしゃぶりを奪いに来るときがあり、泣かされていたりします。（笑）

三つ子といえど三者三様、それぞれが違うことをしているのがおもしろいです。

【最後に、ご両親から三つ子ちゃんに一言】

秀美さんから…

櫂、碧、律、僕ら夫婦のもとに生まれてきてくれてありがとう。

沢山笑って楽しい日々を家族みんなですごそうね。

これからもよろしくね。

綾乃さんから…

元気にすくすく育ってね！

★★★★★★★★★★★★★★★★

いろいろとお忙しい中、インタビューを受けていただきましてありがとうございました。これからも3人仲良く、元気に大きく育ってくださいね。

テレビに夢中

つかみ合い（笑）

三つ巴

うちゅうらん

秋は芋の収穫の季節でもあり、じゃがいも、さといも、さつまいも、やまいも、そしてこんにゃくいも等様々な芋の美味しい季節がやってきた。

生産量が特に多いのはジャガイモとサツマイモである。じゃがいもは初夏に収穫されるが、にどいもとも言われ秋にも穫れる。

ここではサツマイモについて述べる。サツマイモは鹿児島、茨城、千葉県などで２０２０年の統計では69万トンほど生産されているが減少傾向にある。

サツマイモがわが国に伝えられた来歴は、原産地はメキシコを中心とした中部アメリカ、15世紀コロンブスによってヨーロッパへもたらされた。その後東南アジアから中国に渡った。日本へは中国から17世紀頃琉球、薩摩に伝えられた。その歴史からカライモ、甘藷（かんしょ）、サツマイモなどの名がある。

サツマイモは痩せた土地でも生育し、天候の影響も受けにくいことから、江戸時代救荒作物として青木昆陽（あおきこんよう）によって全国に広められた歴史がある。

芋の美味しさを通して秋を楽しみたいこの頃である。（ＭＫ）

館報中川　第319号　2025年（令和7年）11月15日発行
■発行　〒399-3802　長野県上伊那郡中川村片桐4757　中川村公民館　TEL 0265-88-1005（Facebook）https://www.facebook.com/nakakou2　FAX 0265-88-4005（Eメール）nakakou@vill.nagano-nakagawa.lg.jp
■編集　公民館報編集委員会　■印刷　龍共印刷株式会社

VEGETABLE OIL INK　再生紙を使用しています。